

○議長（黒沢義久君） 次に，１２番菊池伸也君の発言を許します。

〔１２番 菊池伸也君登壇〕

○１２番（菊池伸也君） １２番菊池伸也です。ただいま議長から発言のお許しをいただきましたので，通告に基づいて順次質問をしていきたいと思ひます。

最初に，生活道路の改良の工事についてであります。

市民の皆さんが日常生活の中で，通勤，通学，買い物，地域でのボランティア活動あるいは農作業などさまざまな形で行動をされるときに利用されている生活道路の改良工事について，３点お伺ひいたします。

最初に，以前に未来創政クラブにおきまして，市道として重要な幹線道路と位置付け，市長に改良の要望書を提出してあります和田岩手線の改良工事の進捗状況と今後の具体的な計画予定についてお伺ひをいたします。

この道路は水府地区と金砂郷地区を結ぶ最短距離であるため，水府地区の市民はもちろんのことですが，他地区からの方々も和田岩手線を経由して金砂郷地区や常陸大宮市へと向かわれる方が多いと伺っております。また，東連地町から山田小学校や水府中学校への通学道路としても使用されているため，市民の皆さんが快適な日常生活を送ることができますように，早急な対応のもとに改良工事を進めていただく必要があります。

次に，この中で今まで特に交通事故の多いと言われている箇所があります。それは，和田町から東連地橋間でガードレールの設置をされている急なカーブになっている箇所です。先日も車対車の事故がありました。幸いにも物損事故で済みましたが，その翌々日にはカーブミラーが設置されております。何とも皮肉な感じを受けました。このカーブの箇所は両端ともガードレールの下から草が道路のほうに伸びていて，道路がより狭く見えます。子どもたちが通学する際の安全確保や安心して通行できる道路に早急な改良をするべきであると思ひますが，執行部のお考えを伺ひます。

次に，２年ほど前に地権者の同意を取り，要望をしたと伺っております東連地町の滝名子線の改良工事の時期についてお伺ひいたします。

ここは，先ほど申し上げました和田岩手線に接続される滝名子地区の大切な生活道路であります。道路の現状は救急車や消防自動車などの緊急車両の出入りに苦勞をされるような道路でありますので，早急な対応が必要かと思ひます。また，途中で貯水槽が設置されておりますが，非常に使用しづらい場所に設置されておりますので，道路の設計に入るときには，貯水槽の使用を含めての設計をするべきであると思ひますが，説明会，測量，設計，工期等についてお伺ひをいたします。

また，滝名子線から東連地側につながる道路についても改良すべきと思ひますが，あわせてお伺ひをいたします。

次に，光ファイバー通信網整備進捗状況と光ブロードバンドサービス提供の開始時期についてであります。

最近の新聞紙上に総務省は情報格差をなくするため，光通信網が民間事業者でできない地域には，

補助金を出し整備をして民間に委託をする公設民営化という考え方で進めていき、情報通信の地域格差を解消していくということが記事として載っておりました。本市においては、既に昨年の9月定例会においてご提案され議決されております。

その光ファイバー通信網整備事業が着々と進められていると思っておりましたが、全然進んでいなかったようですので改めてお聞きいたします。昨年の9月の定例会以降、どのような進め方をされたのか。そして今後どのような形で進めていくのか。さらに、光ブロードバンドサービスを心待ちにしている多くの利用者、希望者のためにも供用開始時期、使用料と詳しい情報を提供すべきと考えますが、執行部の考えをお伺いいたします。

また、水府地区におきましては、既に8芯の光ファイバーが整備をされておりますが、それを利用する計画はできないのかどうか、あわせてお答え願います。

次に、自主防災組織の立ち上げについてであります。

最初に洪水土砂災害ハザードマップ作成時の調査内容についての市の対応についてであります。洪水土砂災害ハザードマップは測量やボーリング調査を行い、想定を超える集中豪雨等による洪水や土砂災害から住民を守るために、平成17年に水防法、土砂災害防止法が改正されて作られたものであり、災害情報の伝達体制や避難誘導體制の充実を図ることを定めたものでありますが、特に土砂災害特別警戒区域等に指定されているところが金砂郷地区で12カ所、水府地区で59カ所もあります。その中でも特に人家と山が接近している場所があり、その地区の住民の方は大雨が続いたり、局地的な集中豪雨などの際は家の中でも一番安全な部屋で過ごすように心がけているということですが、土砂災害特別警戒区域でも特に危険と思われる場所等に対して、何らかの対応は考えているのかどうか、お伺いをいたします。

次に、避難場所の設定と避難経路の指示等については公共施設や地域の公民館等が示されており、地域によってはかなり条件が異なりますが、避難場所によっては距離があり過ぎたり、途中に沢があったりで、危険な場合も出てくることが想定されと考えられます。現在、自主防災組織の立ち上げが既に完了している地域では、自主防災組織の訓練や活動がどのような緊急事態を想定して行われているのか。また、地区単位のような大規模な訓練等も考えられているのかどうか、あわせてお伺いいたします。

次に、竜神ダムの緊急放流についてであります。気象庁の予報等で集中豪雨や長雨等が予測できる場合の対応ももう少し柔軟に考え、ダム水位の調節で山田川下流の水位をコントロール可能かどうか、お伺いをいたします。

現在は、竜神ダムの操作規則により行われていることは理解しておりますが、山田川下流においては水面からの護岸の高さが低い場所もあり、その流域に住んでいる方は特に気にかけているようですので、特に洪水対策における水位の調節をもう少し検討できるかどうか、お伺いをいたします。

次に、観光産業と地域の活性化についてであります。

観光資源の魅力アップについての計画について何点か、お聞きいたします。

以前から竜神大吊橋を渡った先に何も無いというご意見をよく耳にします。このところ、渡橋

者数は少しずつですが、確実に増えてきております。これは担当部課職員の日ごろのご努力の賜物であると思いますが、以前に比べれば、まだまだ大幅減の状態が続いております。観光PRの工夫や首都圏の観光会社を訪れるエージェント訪問等を毎年実施するなど、観光客の誘客に積極的に努力をされていますが、新たな誘客や多くのリピーターを増やすなどには至っていないような気がします。

そこで、執行部におかれては、大吊橋対岸の魅力アップをどのように図られるお考えなのか、整備計画等ご検討されていればお伺いをいたします。

なお、毎年のことではありますが、大吊橋の来訪者の中にはハイキングなどを楽しまれ、ゆっくりと自然を満喫される方もたくさんいます。そのお客さんの中には、竜神橋周辺の遊歩道やハイキングコース等の表示の仕方がわかりにくいなどの意見を述べていかれる方がありました。来訪者に見やすく、親切でわかりやすい表示をご検討されるべきであると思います。

また、滝の展望台からの眺望は大変素晴らしいものがあります。晴れて澄みきった日には遠く富士山が見えるほどです。せっかくの眺めですが残念なことに方位盤が設置してありません。観光客のためにも方位盤の設置のご検討をしてみてはどうでしょうか。

その他、今年から第4駐車場が整備されて来訪者の駐車スペースがかなり増えております。この第4駐車場からは林の中を歩き、吊橋へと向いますが、その歩道の両端には伐採された木が片づけられないまま残っていました。しかし、この駐車場からの林の中の登坂道は花などの植栽を計画すれば、新たな魅力アップにつながるかと思えます。それと同時に、第1駐車場周辺及び第2駐車場からの登坂階段周辺についても、季節を問わず来訪者をもてなすような花木等により景観の整備ができないかどうか、執行部のお考えを伺います。

観光資源の魅力アップを図ることが観光振興と地域の活性化にダイレクトに結び付くと思いますので、よろしくご答弁をお願いいたしまして、1回目の質問を終わります。

○議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。建設部長。

〔建設部長 菊池拓夫君登壇〕

○建設部長（菊池拓夫君） 生活道路の改良工事についてのご質問にお答えいたします。

初めに、和田岩手線の道路改良工事の進捗状況についてでございます。本路線は東連地橋を起点として金砂郷方面へ約440メートルを整備する計画でございます。この路線は昨年度に測量、設計を行っております。本年度は東連地橋側から山根地区間210メートルについて用地取得と改良舗装工事を実施いたします。残り区間約230メートルにつきましては、平成23年度に工事を完成させる予定でございます。

次に、和田岩手線で特に交通事故の多い箇所の幅員改良についてでございます。ご質問の箇所は和田町の県道常陸太田烏山T字路交差点から東連地橋までの市道約200メートルの区間と承知してございます。この区間の道路幅員は4から5メートルと拡幅されておりますが、ご指摘されましたとおり、東連地橋取り付け付近がカーブで見通しが悪い状況にありますので、本年5月下旬に安全を確保するためにカーブミラーを設置したところでございます。

今後の進め方についてでございますが、道路整備は地元のご理解、ご協力が不可欠であります

ことから道路の安全性など現状を調査するとともに、地元町会の意向を十分参考といたしまして道路整備について検討をしていきたいと考えております。

次に、滝名子線の時期についてでございます。

本路線は東連地町地内にある延長４８０メートルの区間を生活道路として整備する計画でございます。本年度の事業でございますが、６月に地元説明会を開催いたしまして、現地測量を行い、事業を推進してまいります。今後は来年度以降となりますが、詳細設計、用地の取得、さらには工事と進めていくわけでございますが、円滑に工事が進みますよう地元のご協力をいただきまして、早期完成に向けて取り組んでまいりたいと考えております。なお、整備に当たりましては、現地を調査いたしまして、生活の利便性向上のため、地元の意見を十分取り入れた計画を作成したいと考えております。

○議長（黒沢義久君） 副市長。

〔副市長 梅原勤君登壇〕

○副市長（梅原勤君） 光ファイバー通信情報網整備進捗状況と光ブロードバンドサービス提供の開始時期についてのご質問にお答えをいたします。

本事業は情報通信格差の是正を図ることを目的として、市と民間事業者が連携して光ファイバー網を整備し、すべての市民にブロードバンドサービスを提供できるようにするための事業でございます。平成２１年９月の議会において予算措置を認めていただき、未整備となっております佐都地区の一部、河内地区、金砂郷地区、水府地区、里美地区に光ファイバー網を整備することとしたものでございます。具体的には市が光ファイバー網を整備し、通信事業者に貸与する公設民営方式で行うこととしまして、平成２１年度に公募によるプロポーザル方式で事業者を選定し、東日本通信電話株式会社茨城支店に決定をいたしております。

その後の進捗状況でございますが、この事業の財源であります総務省所管の地域情報通信基盤整備推進交付金の交付決定が本年３月１１日であったため、平成２１年度中の事業着手ができないことから、平成２２年第１回審議会定例会におきまして、事業費の繰越明許のご承認をいただきました。今年５月に実施設計業務委託契約を締結したところでございます。現在、詳細設計を進めておりまして、今年８月には施工契約を締結し、平成２３年３月までに完成する予定であります。完成後は速やかに通信事業者と賃借契約を締結し、平成２３年４月に通信事業者がサービス提供を開始できるようにしたいと考えております。

また、サービス提供に伴う利用料は、既にサービスが提供されております地域と同額にしたいと考えております。今後の市民へのサービス提供に向けた周知でございますが、サービス提供事業者と協議をしながら早い時期に広報紙やイベントなどでＰＲをしてまいりたいと思います。

次に、平成１５年度に整備をいたしました水府地区地域イントラネットにつきましては、現在旧水府中央公民館、旧給食センター、旧北小学校分の利用されていない光ファイバーがございます。これにつきましては本事業に有効に活用していく方向で設定を進めておるところでございます。

○議長（黒沢義久君） 総務部長。

〔総務部長 大森茂樹君登壇〕

○総務部長（大森茂樹君） 自主防災組織関連のご質問にお答えいたします。

初めに、土砂災害ハザードマップにおける土砂災害特別警戒区域の市の対応についてのご質問でございますが、土砂災害ハザードマップは土砂災害の危険箇所、避難場所、避難経路、災害に関する情報などが記載されておりまして、地すべりやがけ崩れなどの土砂災害のおそれがある危険箇所等を認識し、災害発生時の際は迅速に安全な場所に避難し、被害を最小限に抑えることを目的に作成しているものでありまして、土砂災害危険箇所の整備を目的とするものとはなっておりません。また、民有地の危険箇所等の防止対策につきましては、所有者が対応せざるを得ない現状となっており、市地域防災計画では危険予想箇所について、その所有者、管理者及び専有者に対し、必要な防災工事を施すよう指導を行うと定められております。

次に、自主防災組織の訓練や活動がどのような緊急事態を想定しているかにお答えいたします。

大規模な災害が発生した場合は、防災関係機関の防災活動が十分機能しない場合が考えられます。このような事態において、被害の防止、または軽減を図るためには住民の自主防災活動が大変重要となります。このため、町会等に呼びかけ、自主防災組織の育成と住民の防災意識の高揚を図るため、全町会組織化を図るため、現在進めております。また、自主防災組織の訓練につきましては、町会の皆様に参加していただき、消防との協力による訓練が小学校区単位での訓練、また本年6月6日日曜日には大規模土砂災害を想定して、里美地区全部の自主防災会が参加する里美地区自主防災会合同訓練が行われるなど、さまざまな形態や想定で実施しております。なお、今回の訓練内容につきましては、避難誘導訓練、消火訓練、救護訓練、応急手当・搬送訓練、防災講話などが予定されております。

次に、竜神ダムの放流についてのご質問にお答えいたします。

ダム管理者であります茨城県に確認しましたところ、ダムからの放流に関しましては、議員ご発言のとおり、竜神ダム操作規則に従い、下流への急激な水位の変動が生じないように努めており、ダムへの流入を超える量を放流することはないとのことです。また、毎秒4立方メートル以上の放流に際しましては、おおむね1時間前に周知し、サイレン、警報等により、沿川住民に注意喚起を行い、安全の確保に努めているところです。洪水時の放流につきましては、放流水位に達してから放流するわけではなく、同様に竜神ダム操作規則に基づき洪水の軽減を図るため、流入量を超えない範囲で放流しております。また、ご質問にありました雨量予測や山田川下流の水位をコントロールするような放流は操作規則上困難とのことでございます。

ダムの役割であります生命、財産を守り、水利用と活用に支障がないよう、6月からの取水期を迎え、安全管理を図るため、引き続き県との連携を図ってまいりたいと思います。以上です。

○議長（黒沢義久君） 産業部長。

〔産業部長 江幡治君登壇〕

○産業部長（江幡治君） 観光産業振興と地域の活性化についてのご質問にお答えをいたします。

竜神大吊橋対岸の魅力アップにつきましては、貴重な地域資源である周辺の自然環境や景観との調和を重視しながら、来訪者が滞留できる環境を整備することが大切であると考えております。

このため、多様化する来訪者の満足度やニーズ調査を定期的に行い、それらを参考にして計画を立て、できるものから整備を進めてまいりたいと考えております。

次に、遊歩道やハイキングコース等の標示等、武生展望台等への方位盤の設置についてであります。来訪者の立場に立って、安全で安心して歩くことができ、眺望や景観が楽しめるよう検討してまいります。

続きまして、第4駐車場と遊歩道についてであります。今回の鯉のぼりまつりにあわせて、緊急に整備をしましたことから伐採木等の処理ができておりませんでした。早急に撤去を含めて対処をしてまいります。また、この遊歩道につきましては林間の遊歩道としまして、できる限り自然に近い状態で維持してまいりたいと考えております。周辺の景観に配慮しながら整備を検討してまいります。

第1駐車場周辺及び第2駐車場からの登坂階段周辺につきましても、遊歩道と同様に周辺の景観と生態系を考慮しながら、整備を検討してまいりたいと考えております。

竜神大吊橋並びに周辺整備につきましては、来訪者が満足をし、リピーターとなってくれるような常に新たな魅力のある竜神大吊橋を目指して効果的な整備を行うなど継続的な誘客を図ることによりまして、交流人口の拡大と地域の活性化を図ってまいりたいと考えております。

○議長（黒沢義久君） 建設部長。

〔建設部長 菊池拓夫君登壇〕

○建設部長（菊池拓夫君） 大変失礼しました。生活道路の改良工事について答弁漏れがございました。

滝名子線から東連地側につながる道路についてお答え申し上げます。この路線は山田川堤防の一部を併用し、市道として利用している区間の先線のことと思われます。この路線につきましても、地元の町会を十分参考といたしまして、道路整備について今後検討してまいりたいと考えております。大変失礼しました。

○議長（黒沢義久君） 12番菊池伸也君。

〔12番 菊池伸也君登壇〕

○12番（菊池伸也君） 2回目の登壇ですので、今回は要望のみにとどめたいと思います。

生活道路の改良でありますけれども、大変前向きな答弁であると理解をいたしますが、いずれにしても地元の町会長さん、あるいは市民の皆さんの話を聞いて進めていただけるということですので、早急な対応を図っていただきたいと思います。

それから、光ファイバー通信網の整備と光ブロードバンドサービスの提供開始時期についてでありますけれども、今から始めて間に合うのかという気はしますが、平成23年4月に供用開始をしていただけるということですので、よろしくお願いしたいと思います。

それから、自主防災組織の立ち上げについてでありますけれども、ハザードマップ等の調査内容について、市の対応についてでありますけれども、現実には大変危険な場所に住んでおられる方がありますが、そういう場所については地権者に要望をしていくということによろしいのでしょうか。実際に市で何らかの対応をしていただけるという答弁ではなかったような気がするんです。

が。

次に、竜神ダムの緊急放流については、ダムの規則により理解をしております。これは洪水期間等にあらかじめ湖水を下げたりいろいろ対応しているようでありますので、大体そういうふうを考えられているのかと思っております。

次に、観光産業と地域の活性化についてであります。観光交流人口の増加を図る上で、大変に前向きなご答弁と理解をいたしました。的確な状況把握のもとに年次計画を立て、積極的に実行されていくものと期待をします。財源等につきましては、竜神大吊橋の渡橋料、積立基金の積極的な有効活用を検討されるべきだと思っております。先ほども申し上げましたが、観光資源の中でも特に竜神大吊橋周辺の新地域資源である自然の有効活用と魅力アップを図ることが市内の観光施設に及ぼす影響は極めて大きいと考えられますので、積極的に取り組まれることを強く要望いたしまして、私の一般質問を終わります。